

# 静脈注射認定看護師（IVナース）育成 プログラムとワーキングの取り組み



IVナース育成WG

# 静脈注射認定看護師（IVナース）育成WG

## ◆目的

静脈注射認定看護師の育成を継続し、静脈注射に関する看護師の質を担保する

## ◆役割

- ① 静脈注射認定看護師取得に向けての取り組み
- ② 静脈注射認定看護師の育成プログラムの企画・運営・実施・評価および更新制度についての検討

メンバー: 13名

看護師長	3名
副看護師長	4名
(うち別府病院1名)	
看護師	6名

# 令和5年度 IVナース育成WGの年間活動

令和5年度 IVナース育成WG 年間活動計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日			6日			5日			5日		6日	
場所			打合せ1			打合せ1			打合せ1		打合せ1	
WG		<ul style="list-style-type: none"> <li>IVWG打合せ</li> <li>IVWG資料準備</li> </ul>	【第1回】 準備3年間活動計画立案 準備3回プログラム			【第2回】 見直し 更新テスト準備 活動中間評価 更新テスト準備		<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアセンター 報告書分擔表作成</li> </ul>	【第3回】 完成 更新テスト実施 看護教育ファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備34回プログラム</li> </ul>	【第4回】 年間活動評価	
静脈注射認定看護師 (IVナース育成)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部受講者の確認</li> <li>再試験者の確認</li> </ul>	運営・実施・評価		(地域公開) 演習 筆記試験				運営・実施・評価		演習 筆記試験		
部署への働きかけ 認定・更新率の確認(通年)												
認定更新制度 IVナース						更新テスト時期予告① デモテスト準備開始		更新テスト時期予告② デモテスト準備開始	更新テスト事前通知	更新テスト終了通知	認定更新制度評価	
その他業務		IV冊子完成									研修報告書作成 センター報告書作成	

# 静脈注射教育プログラム

IVに関する知識と手技の標準化・認定による可視化



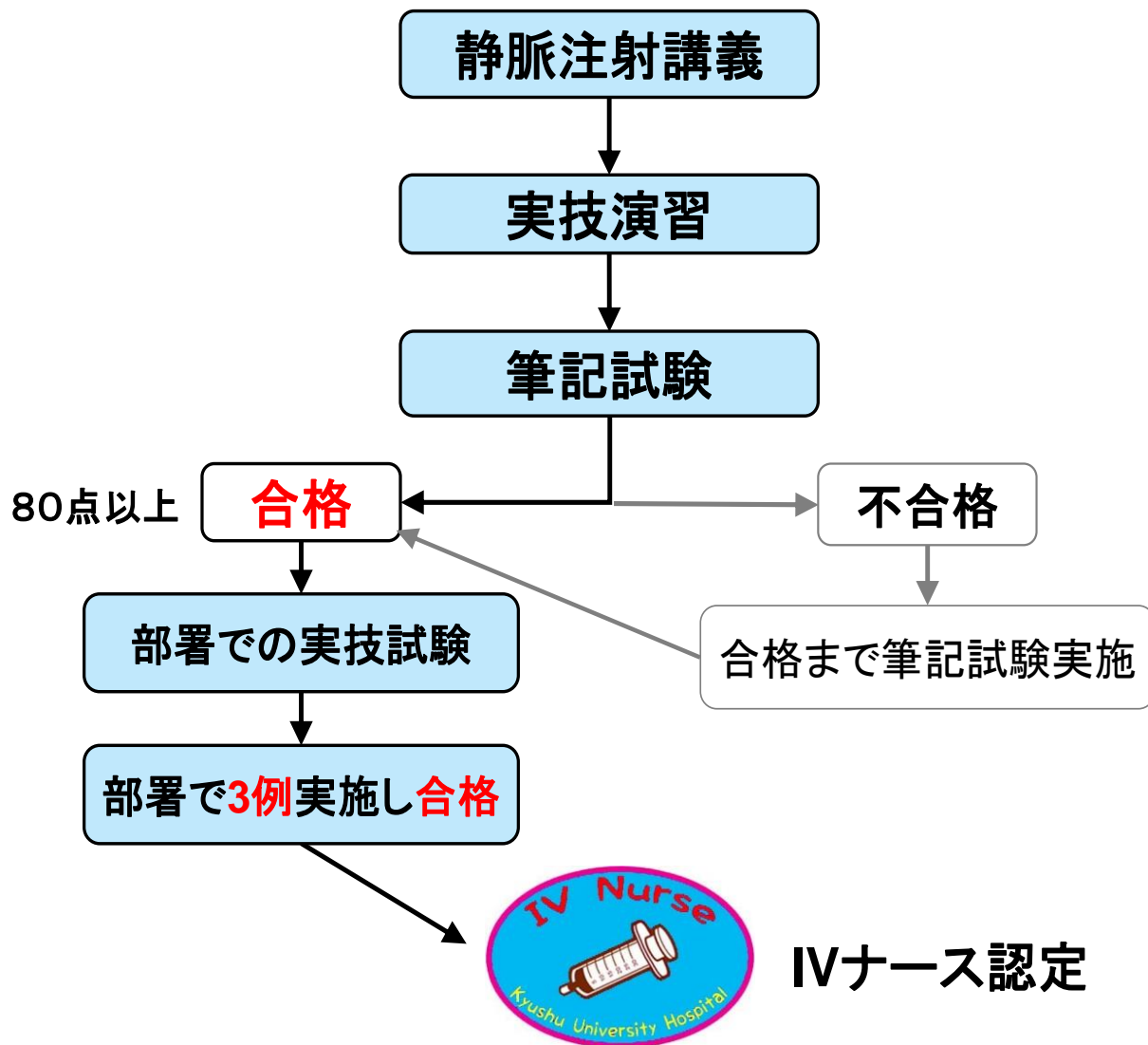
STEP4：実技試験による安全・安心な実践力確認、  
評価者による客観的他者評価

STEP3：筆記試験による知識修得状況確認・客観的評価

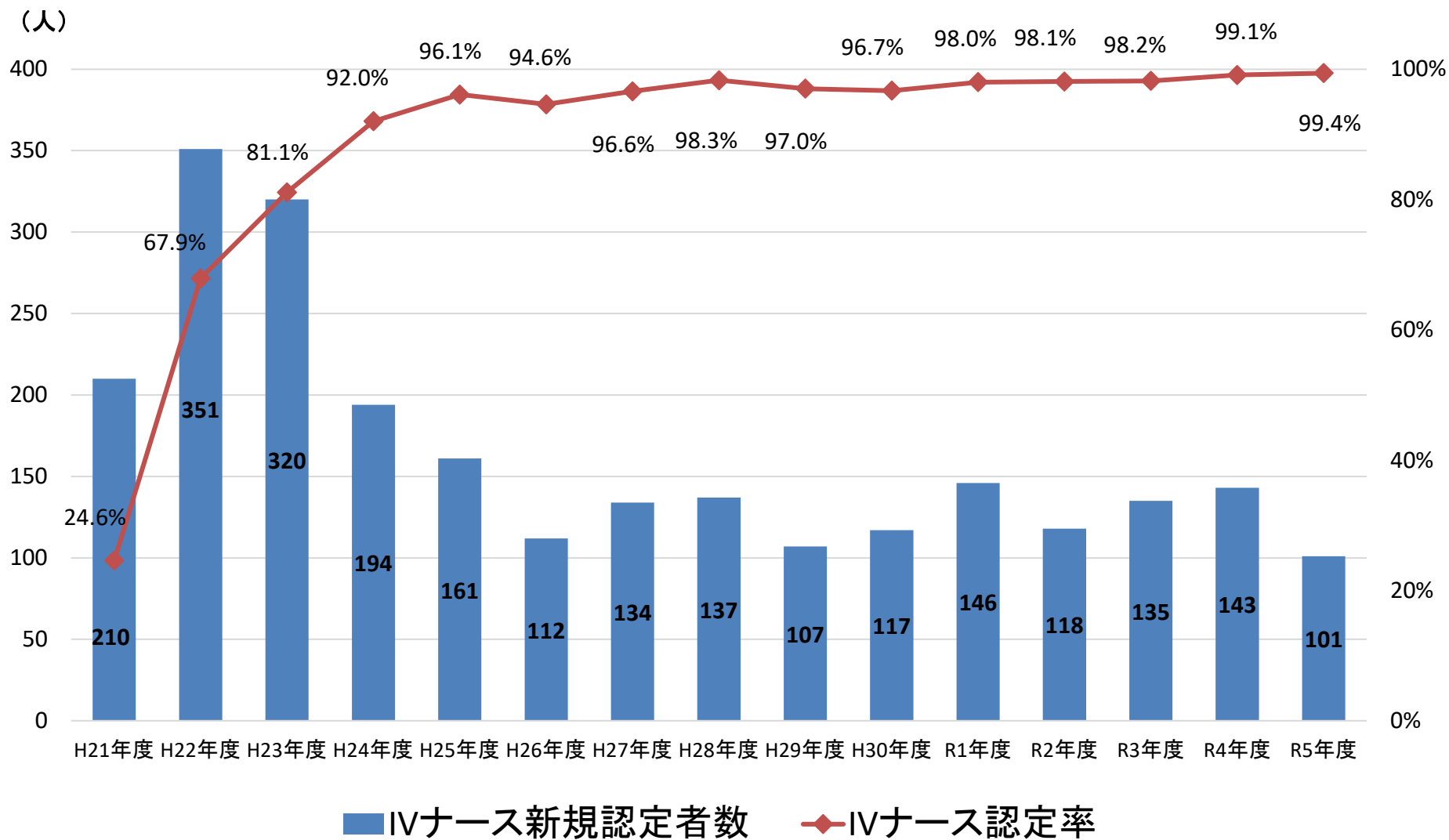
STEP2：実技演習による安全・安心な手技・手順確認

STEP1：静脈注射講義（患者看護、薬剤知識、解剖生理、感染管理、安全管理、  
法的責任等）による静脈注射に関する専門知識修得、再確認

# IVナース認定フロー図



# IVナース認定者数の推移



# IVナース更新制度について

## ◆目的

IVナースとして安全な静脈注射実施のために、継続的な質の維持向上をはかる

## ◆条件

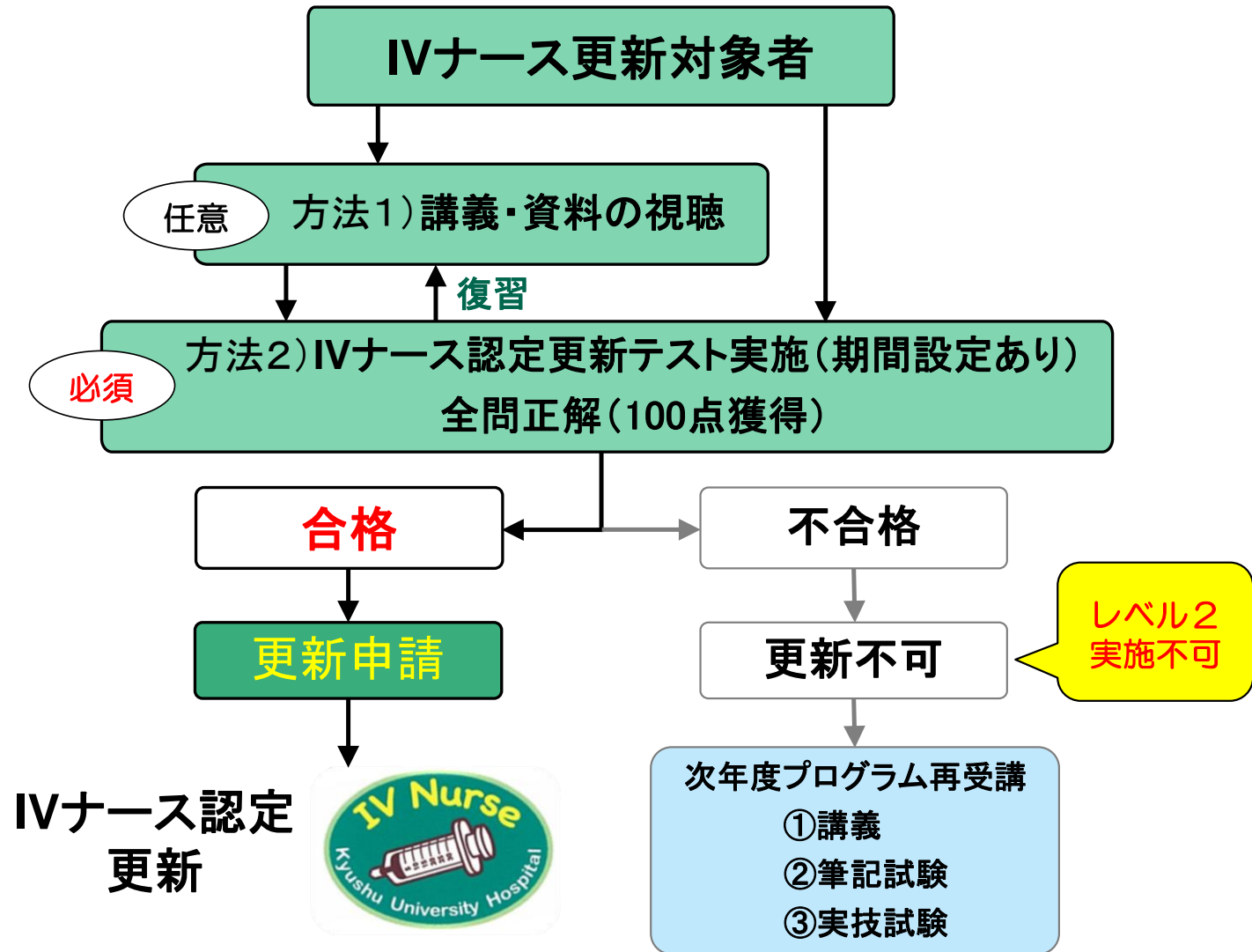
認定更新の条件は、知識確認試験に合格した者

## ◆方法

知識確認試験は、九州大学のWeb学習システムeラーニング内の「IVナース認定更新テスト」を使用し、全問正解(100点獲得)を必須としている

更新対象者全員が認定を更新できることを目標に、ワーキングで準備・実施のサポート・評価を実施。

# 認定更新制度フロー図

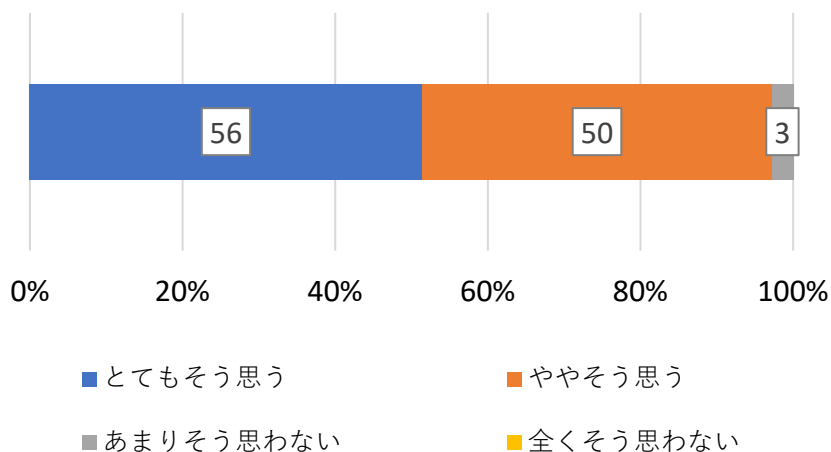




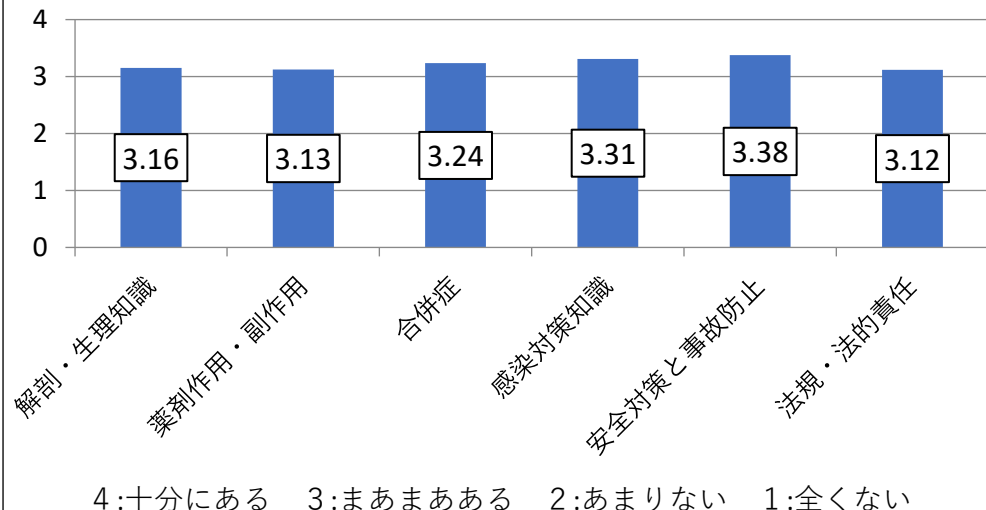
# 令和5年度

## IVナース認定更新テスト後のアンケート結果

### 看護の質の維持・向上 n=110



### 知識・理解度 n=110



更新者の9割以上が、認定更新制度は看護の質の維持・向上に繋がっていると思うと回答した。また、知識・理解度は6項目すべてにおいて3点以上となっており、認定更新テストの実施は知識の修得に繋がっていると言える。

### アンケート自由記載（一部抜粋）

- 定期的に復習することで質の向上に繋がると思う。
- 曖昧になっていた知識を再確認することができた。

# 令和5年度 静脈注射教育プログラム研修（6月実施）

## 地域へのプログラム公開を実施

### 講義

参加施設：19施設      院外受講者：53名

### 講義公開の目的

地域の看護職員が参加することで、静脈注射実施に関する正しい知識を学び、日常看護業務に反映させることで、静脈注射の看護実践力向上に役立てる。

### アンケート自由記載（一部抜粋）

- 知識の再確認と静脈注射を実施することに対する責任の重さを再認識できた。
- 資料をもう一度振り返り、明日からの業務の質をあげていきたい。



# 令和5年度 静脈注射教育プログラム研修（6月実施）

## 演習

参加施設：16施設

院外受講者：38名

## 実技演習公開の目的

各施設での指導的役割を担う看護職員を対象に、安全・安心な技術、看護ケアを実技演習を通じて確認してもらおう。演習後は、それぞれの学習内容を活用して各施設の研修や教育計画等に役立てる。

## アンケート自由記載（一部抜粋）

- 自施設より安全確認の回数が多いと感じたため、自施設用のマニュアルの整備に活かしていきたい。
- 当院と異なる物品を使用することで知識が増え、学びが増えた。



# 令和5年度 静脈注射教育プログラム研修（1月実施）

診療放射線技師法の一部改正に対応するため  
院内看護職員に加えて診療放射線技師2名にも研修を実施

## 講義

- 臨床大講堂で動画講義を視聴。

## 演習

- 1人あたり90分間の演習を実施。
- 腕モデルを用いて、静脈留置針と翼状針の手技を演習。
- シミュレーターを用いて、静脈注射を行う患者の療養環境や環境整備を学ぶ場を設置。

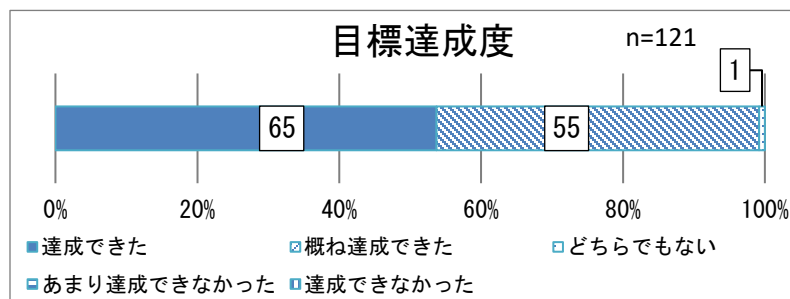
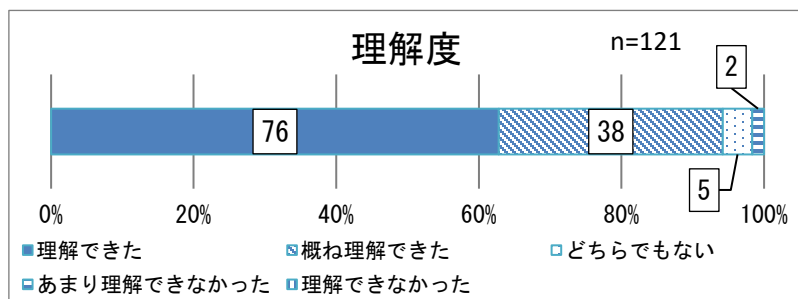
## 筆記 試験

- 受験者全員が同時に受験できるよう、3つの会場に分けて実施。

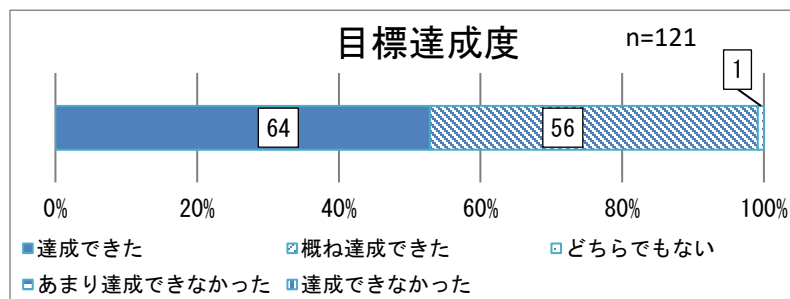
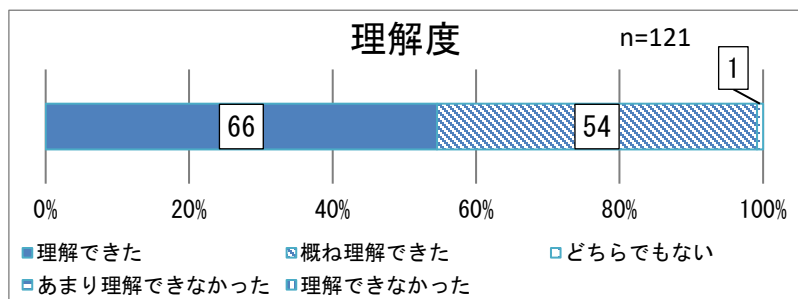


# 令和5年度 静脈注射教育プログラム研修（1月実施）

## 講義後のアンケート結果



## 演習後のアンケート結果



## アンケート自由記載（一部抜粋）

- ・ 講義のあとに演習を行うことで、穿刺部位や注意点を考えながら演習を行うことができた。
- ・ 静脈注射で重要なのは手順だけでなく、使用する薬剤の知識や合併症の知識と理解と対応なども含まれており、実施者としての責任がとても大きい技術であることが理解できた。

# 今後の課題

- 静脈注射認定看護師育成プログラムを継続し、適宜見直しを行いながら、IVナースの育成や更新制度の活用により静脈注射に関する看護の質を担保する。
- 静脈注射認定看護師育成プログラムの地域公開を継続し拡大させていくことで、静脈注射における看護実践力向上に貢献する。